



情報(第161号)



令和4年11月30日

745-0031 周南市銀南街 21 銀南ビル 2階
銀座社会保険労務士法人 社会保険労務士 吉国 智彦

TEL 0834-34-0567 FAX 0834-34-0565

E-mail: ginzasyakaihoken@iaa.itkeeper.ne.jp

<https://ginza-syaroushi.com/>

動画:社会保険労務士チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCUHFVsnXW9LJGy4HG4hRQZw>

大根干し：自前の沢庵を漬けます（令 4.10.23 岩国市錦町「道の駅ピュアラインにしき近辺」）

サッカーW 杯から学ぶ

今月 20 日に開幕したサッカーW杯は、23 日、日本代表がW杯を 4 度制覇したドイツ代表を撃破し、27 日にはコスタリカ代表も破って、決勝トーナメント進出を決定したことから大いに盛り上がっています。となるはずでした。世の中、なかなかうまくいかないものです。



こうなると、強敵スペインを撃破して、再び歓喜の輪を作りたいとの期待を込めて、今号は、日本代表選手の活躍から労務を考える企画構成です。

1 浅野拓磨選手の決勝ゴール

何度も放映されていることから、見られた方が大多数でしょう。ドイツ戦、浅野拓磨選手が背後からのロングパスに反応、①鮮やかなボールコントロール、②体でドイツ守備選手をブロック、③角度のないところから正確に蹴ってゴール上に突き刺しました。世界的ゴールキーパーのノイアーから奪った語り継がれるゴールで、5年から10年に一度あるかないかでしょう。①から③の三つの困難を同時に克服したことで素晴らしいゴールを見ることができました。

少し皮肉的にいうと、5年から10年に一度あるかないかのゴールですから、案の定コスタリカ戦では見られませんでした。

2 まぐれではない必然

浅野選手について、前回ロシアワールドカップでは、代表選手として選ばれず帯同選手としてロシアの地を踏んでいます。

4年半前のW杯が終わって、「今日のことを想像しながら準備してきた」と、次のとおり語っています。それを素直に語っていたことが事実であることを印象付けています。

- (1) けがばかりだったので、食事を変えた
- (2) 同じくトレーニングを変えた
- (3) 4年半前から1日も後悔のないように過ごしてきた
- (4) 1日も今日のために妥協したことはなかった
- (5) できるかどうかじゃなくてやろうとするかどうかだ

3 資格取得

このような取組を労務管理の観点から考慮してみましょう。会社が指示命令した資格を取得することが求められ、残念ながらこれに落ちたとの話をよく聞きます。

仕事をしながら資格取得することは、一般的には困難なことで、よほど性根をすえて勉強する必要があります。1日も合格のために妥協したことはなかったといえるくらいに気迫が必要なのです。

ところが、中には、その方の部屋は、漫画、ゲーム、テレビで取り囲まれている風景を思い浮かべることがあって、そういった方が合格することはまずないといっ

てよいです。サッカー選手が、試合で結果を出すためには、食事を変えた、トレーニングを変えたなど、見えないところでの努力が必要です。資格取得も同じような要素があって、自宅で自己研鑽することが絶対に必要なのです。

4 資格取得するための取組み

自己研鑽するにしても、計画的にすべきで、闇雲にやっても結果は得られません。目標を念頭に一日一日を歩むとの取組みを紹介します。

(1) 第 1 日目の行動

「〇年〇月〇日」〇〇試験に合格！合格通知を受け取る。部屋に合格証書を貼ることを頭に描く。「合格したぞ」！と山や海で力一杯叫ぶ

(2) 明日の行動

試験勉強の計画を樹立する

(3) 1 週間の計画を立てる

曜日ごとの勉強科目と勉強時間帯を決定、土日祝日の勉強時間帯を決定、上記計画を部屋に貼る

(4) 向こう 1 か月の行動

教科書を 1 回読む、全体構成を理解する、過去問集を 1 回実施してみる

(5) 2 か月後～3 か月後までの行動

教科書を 2 回読み、疑問点洗い出しとその答えを理解し、過去問集を 2 回実施、間違い箇所の解決

(6) 3 か月後～受験日までの行動

3 か月～受験日まで教科書を 3 回読み、疑問点の解消、過去問集を 3 回実施、正答率 90%まであげる

5 共通点

前項の取組みは、浅野選手の取組みと共通しています。今日のことを想像しながらとは、W杯で活躍することであり、目標を頭に描いたことから成功の物語が始まっています。それが一日一日を歩む決意となりました。一流選手だけができることではなく、「できるかどうかじゃなくてやろうとするかどうかだ」です。生きる姿勢の問題とってよいわけです。

6 最後に

遊び心でW杯について当職の感想です。コスタリカは、格下相手、スペインに大敗していたことから、選手は、10 点くらい取って英雄になるとの意気込みがあったように感じられます。

ドイツ代表に勝って、嫌でも新聞、テレビ、スマホで写真・画面が流れることから、それは無理もないことです。そのため、前半から、パスミス、ボールタッチミスが多発していました。いわゆる気合が空回りしたといった状態で、ゴールの臭いがしないと観察しました。スペイン戦において自分達のプレーができるか否かにかかっています。